

「再興するナガスクジラ捕鯨、衰退するミンククジラ捕鯨—アイスランドにおける商業捕鯨の現況と課題—」

浜口尚（園田女子学園大学短期大学部）

アイスランドでは 2 種類の商業捕鯨、すなわちナガスクジラ捕鯨とミンククジラ捕鯨が実施されている。発表者が現地に滞在していた 2018 年 7 月 28 日現在、ナガスクジラ 57 頭とミンククジラ 6 頭が陸揚げされていた。2 年間の活動休止の後、本年、ナガスクジラ捕鯨は再開された。今漁期が始まった 6 月の第 1 週以降、捕鯨は順調に推移し、平均すれば 1 日 1 頭の割合でナガスクジラが陸揚げされている。2017 年 12 月、日本の厚生労働省は、アイスランドからの輸入ナガスクジラ肉に含まれる PCB 類の検査手続きを簡素化した。この規制緩和は、ナガスクジラ肉のほぼ全量を日本に輸出しているアイスランドの捕鯨会社にとって追い風となっている。一方、ミンククジラ捕鯨は 7 月の第 1 週以降停止されている。その理由は、昨年 11 月、当時の水産大臣が退任前日に首都レイキャヴィクを取り囲むファクサ湾における捕鯨禁止海域（ホエール・ウォッチング専用海域）を拡大したからである。その結果、ミンク捕鯨船はより遠くの海域まで出漁することを余儀なくされ、経費が高騰、捕鯨が困難になっているからである。今回の発表では、過去 3 年間の現地調査に基づいて、アイスランドにおける商業捕鯨の現況と課題を報告する。